

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第24号
令和6年(2024年)3月13日
文責 校長 佐藤 政臣

6年生は、卒業に向けて残りわずかとなりました。本号は、6年生の卒業に向けて取り組んでいることをお知らせします。

6年生、卒業に向けて① ～卒業プロジェクト報告会～

現在6年生は、プロジェクトチームに分かれて、「感謝の気持ちを表す取組」を行っています。

3月8日(金)、6年生が、各クラス4つのプロジェクトチームに分かれて取り組んだことを報告しました。取り組んだ内容としましては、主体的な卒業式になるような取組、学校への感謝、地域の人への感謝等を様々な形式で伝えるものでした。

卒業を前に、これまで成長できたことに対して、「感謝」の気持ち(ありがとう)を伝えることができたようです。

報告会の最後の校長講話では、次のような話をしました(以下、講話の概略)。

(～前略～)「ありがとう」を漢字で書くと「有り難う」と書きます。「有ることが難しい」ということです。ですから、ありがとうの反対の言葉は、あるのが当然のことだから、「当たり前」ということになります。今まで「当たり前」と思っていることがたくさんあったかもしれません。しかし、「当たり前」と思えることも、実はたくさんの人に支えられて成り立っています。だからこそ、してもらったことには、「ありがとう」と言いたいですね。

ところで、みなさんは、「ONE PIECE」という漫画を知っていると思います。ルフィなどの ONE PIECE の登場人物たちは、何かをしてもらったり、助けられたりしたとき、必ず「ありがとう」という言葉を使っています。「サンキュー」とか「どうも」とか言っている人は1人もいません。ルフィ、サンジ、ゾロ、ナミの全員が、「ありがとう」と言っているのです。これには、作者の尾田栄一郎さんが、「ありがとう」という言葉にこだわり、それが素直にかっこいいと思えるからだと言っています。「あたり前」だと思っていることが、実は「あたり前」ではない。そして、そのことに対して、素直に感謝の言葉で「ありがとう」と言える人は、校長先生もかっこいいなと思います。

6年生、卒業に向けて② ～卒業式全体練習～

今年度の卒業式は、在校生(5年生)も参加した卒業式になります。そこで、厳粛な式に参加する在校生(5年生)に向かって、校長として次のことを話しました(以下、講話の概略)。

(～前略～)なぜ礼の仕方一つ、卒業証書の受け取り方一つにこだわるのでしょうか。それは、「卒業式」は儀式だからなのです。卒業式の「式」は儀式の「式」なのです。(～中略～)

儀式とは、日常生活とほんの少し違った形で、人生の節目にけじめをつけ、新たに出発する決意を示す場です。

結婚式の主役が、新郎新婦であるならば、卒業式の主役は卒業生一人一人です。そして、結婚式を祝う人達がいるように、卒業式を祝う人達が皆さん在校生(5年生)なのです。だらだらとした態度、歌声、まばらな拍手……。これで卒業生は、祝福されて卒業していくという気持ちになれるのでしょうか。5年生は1年後、卒業式を迎えます。その時、次の5年生が、だらしない態度をとれば皆さんは残念な気持ちになるでしょう。良い卒業式にするためには、5年生の協力が必要です。ただ座っているだけではだめなのです。6年生の卒業を祝い、良い卒業式にするためには…

◇祝福の気持ち

◇素晴らしい呼びかけの声と歌声

◇温かい拍手

が必要です。きっと皆さんは、祝福の気持ちを持っていると思います。その気持ちを具体的な立ち振る舞い、歌・声、拍手で表してください。

素晴らしい卒業式になるように、卒業生、在校生、教職員一同、全力で取り組んでいます。

6年生、卒業に向けて③

～登下校見守り隊の皆様への感謝の会～

3月13日(水)、地域の見守りボランティアの皆様への感謝の会がありました。プロジェクトチームが作成した動画を視聴していただき、感謝の手紙を渡しました。ボランティアの皆様には、交通指導のみならず、不審者対策においても尽力いただいております。子どもたちが「合志楓の森の宝」として、健やかに育っていただけますよう、今後も変わらぬお力添えをお願いいたします。



楓の森小 HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

